

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	子宮体癌における術中腹水細胞診の意義
	研究目的	子宮体癌における術中腹水細胞診陽性が再発になりうるかどうかは明確な根拠は現状ありません。ただし、臨床的にはその他の再発リスク因子のない患者さんで腹水細胞診陽性の方が再発することも度々経験され、その取扱いに関しては慎重な対応が必要です。 そのため、今回当院で治療された子宮体癌患者さんを対象に腹水細胞診陽性だった方とそうでなかった方とを比較して科学的に再発率に差が生じるかを検討することとしました。
	研究対象者	1985年1月から2018年12月に当センター婦人科で手術を行った子宮体癌の患者さんで、術中腹水細胞診を行った方
	研究期間	西暦 2020年5月27日～西暦 2022年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	上野 悠太
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	婦人科
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	特になし